

## カンボジアにおける持続可能な病理教育提供のための指導者養成事業

- ① カンボジアでは、がんなどの慢性疾患が増加しているが、国内の病理診断体制は脆弱で、2017年人口1400万人に対し、病理医4名、病理技師15名、病理検査室のある公立病院は3か所のみであった。国立保健科学大学(UHS)は2015年に病理レジデントコース、2019年に臨床検査学科技師コースを開始し、NCGMは、1期生5名、2期生6名のUHS病理レジデント養成に寄与し、病理学を学んだ臨床検査技師66名が卒業し、臨床検査学科で講義を行える講師1名を養成したが、医学部は教員1名で医学部生への講義・実習レジデントへの講義・実習のすべてを行っているのが現状である。
- ② 本事業では、日本の病理教育システムを展開することによりカンボジア人自身で病理教育が行えるよう支援するものである。
- ③ NCGMは病理技術研究会、日本臨床細胞学会と連携し、神戸大学医学部病理学教室および近畿大学医学部病理学教室の協力を得て、病理教育を行う教員養成および教育教材作成を支援する。UHS病理レジデント3期生に対して、1期生・2期生の中からUHSの非常勤教員となった者を支援して講義を実施する。また、3期生の本邦研修を行い、今後カンボジアで教材として使用できる標本の収集と整理を3期生への実習と並行して行う。さらに、1期生・2期生の中から日本の病理教育システムを修める者、病理領域で日本および同等の資格取得を目指す者の支援を行う。
- ④ UHS病理レジデントコースを修了した病理専門医11名の中から、UHSで教員として教えることができる者が養成されることで、カンボジア国内の人材で持続して病理教育が提供できることが可能になる。また、レジデントコースを修了した病理専門医の中から日本および同等の資格取得者が出ることで、カンボジア病理の学術的な向上が期待される。将来的にはカンボジア病理学会の設立、国際学会への加盟につながりカンボジア病理の持続的発展の可能性はある。

